

令和3年度 施設関係者評価結果報告書

社会福祉法人 照治福祉会 摂津峡認定こども園 施設関係者評価委員会

評価委員：5名（南平台小学校 校長 高田聖美、阿武野中学校 校長 岩佐和美、北阿武野地区福祉委員会 委員長 上田恵子、卒園児保護者 代表 植田紗季、保護者会 会長 河村顕子）

令和3年度 施設関係者評価委員会実施内容

第1回施設関係者評価委員会

令和4年3月23日（水）9：30～12：00 出席者：6名（内園関係者2名） 欠席者：1名

実施の流れ

- 1.本園の教育・保育方針、目標について
- 2.令和3年度事業計画の実施報告について
- 3.令和4年度事業計画の実施について
- 4.自己評価について
- 5.就学に向けて円滑な接続のための取り組みについて
- 6.地域貢献事業について
- 7.質疑応答

1.本園の教育・保育方針、目標

【方針】

「自然の中で わくわく キラキラ のびのびと 生きる力を育もう」

- ・子どもの生活にゆとりを与える落ち着いた環境を保障する中で、一人ひとりの子どもの“いま”に寄り添い、情緒の安定を図る保育。
- ・子どもの個性を大切にしながら自分を大切に思う心を育て、そこから人を信じ愛する心の芽生えを生む保育。
- ・四季折々の自然環境の中で、あるいは、子どもの創造力を広げる保育環境の中で五感を開き、様々なあそびや体験を通して、健全な心身の発達を促す保育。
- ・友達や保育者と関わりながら、多様な感性と表現力を養い、自己を存分に発揮し、豊かな人間性を育む保育。
- ・家庭や地域社会との相互理解、連携、協働を深め、地域福祉・教育の振興に資する子育て支援ハブ拠点として、地域とともに成長し合う保育。

【目標】

『仲間とのゆとりある生活と豊かな遊び』の展開を中心として、乳児は、一人ひとりを大切に作る個

別対応型の家庭的担当制保育を実施し、生命の養護と個の自立を目指す保育、幼児は個から集団へ、自立から自尊へ向けて、異年齢混合保育による育ちあいをベースに、自らの人生を生涯に亘って主体的に、より良く生き抜くための基礎を培う教育・保育を目指す。

- I. よくあそび、よく食べ、よく眠る安定した生活リズムを作り出す保育
- II. 自分も他者も、すべてのものを大切にする気持ちを育む保育
- III. 人とかかわりを楽しみ、より良い関係にする力を養う保育
- IV. 自ら考え工夫して、より楽しく遊ぼうとする意欲を生む保育
- V. 失敗を恐れず、ものごとを最後までやり通す根気を伸ばす保育
- VI. 地域の子どもから老人まで、あらゆる世代と交流を持つ開かれた保育を展開する。

2.令和3年度事業計画の実施報告について

*令和3年度実施計画報告

園児は定員割れすることなく、順調に運営している。職員数についても配慮の必要な子どもにきちんと目が届くよう十二分に配置している。

*ドキュメンテーション研修

コロナの中でどのように園を運営していくか職員と話し合い、とにかく、考えるだけでなく『やってみよう』という精神で取り組んできた。そのなかで、職員の質の向上のためにドキュメンテーション研修を実施した。ドキュメンテーションとは、子どもからわきあがった感情、いま子どもが何を考えているのかという子どもの想いに寄り添い、それを保育者が文章・写真で表現するもので、保育者は1枚のドキュメンテーションを通じて子ども主体の保育というものを深く考え、保育の質の向上につながる学びの場となった。

*分業について

保育者は朝出勤してから退勤するまでは常に子どもが横に居る環境であり、常に忙しい。その中で保育計画、行事の準備なども進める必要がある。保育士はオールマイティに、保育指導、造形指導、音楽指導をしなければならないというのが一般的な考え方だが、保育者が寝る間を惜しんで頑張ることが果たして本当に子どものためになるのか、自分の得意な分野を伸ばし、自分の出来ること出来ないことを把握し、出来ないことは他の人に委ねることも必要ではないか。業務を滞りなく進めるために、お互いが助け合い、支え合っていきましょうというのが分業の考え方である。

*学校評価委員会について

年2回実施を目標にしていたが、コロナでかなわなかった。12月末には子ども哲学の取り組みを知ってもらうため、公開保育を実施した。高槻市の小中学校、近隣の教育者に案内を出し、思いのほか沢山の方に参加して頂けた。このような取り組みは、ぱっと広がるものではなく、地道に少しずつ取り組んでいくことが大切だと考えている。今後も小学校と連携しながら子どもの幸せについて考えていきたい。

3.令和4年度事業計画の実施について

出来る、出来ないは別として、元気になっていく必要がある。

園を中心に、地域の方々が活発に出入りできるように、出来ることを最大限取り組んでいく所存である。

4.自己評価について

添付資料参照

5.就学に向けて円滑な接続のための取り組みについて

・特別保育

体操、たいこあそびを実施している。子どもの年齢・発達に合った運動、あそびを通じての機能向上、友だちと共に活動する一体感を大切にしている。

・小学校との連携

大きな課題であると考えている。教育の観点で見ると、公立幼稚園よりも小学校とこども園の連携は疎遠であるというのが現実。高田先生などのサポートを頂きながら、これから重点的に取り組みをしていきたい。

・子ども哲学教室

本来は子どもたちの居場所の確保である。子どもが自由に表現して相手にわかってもらえる、自分の居場所を感じられる、それが幸せにつながると考えている。手法がたまたま対話であったり、哲学であったりするだけで、地域のすべての子どもが楽しくいきいきと生活できるようにしたいと思っている。その取り組みを皆さんに理解いただくために、電子書籍を出版した。これまでの保育者と子どもたちとのやり取りなどのエピソードを綴っている。子ども哲学の取り組みで改めて分かったことは、乳幼児期に大人が用意したものを取り組むより、子どもたちがやりたい、楽しい、面白いという気持ちが湧き出て実現できる過程が大切。子どもの気持ちが動く経験を重ねることで、また次につながる意欲がでてくる。その積み重ねが大事であると考えている。乳幼児期のこの経験の積み重ねが小学校中学校でいきる基礎となるのではないかと。つまり、この乳幼児期にこの子ども哲学の取り組みをすることに意味があると考えている。

6.地域貢献事業について

園庭開放は火曜・金曜で実施している。コロナが落ち着けば以前のように昼食付で実施できればと思っている。一時保育についてはコロナ禍で利用者が減っているが、補助金以外でゆとりのある運営をするための貴重な資金源でもあるので、力を入れて取り組む予定である。

7. 質疑応答

・ 職員の構成は？

→ 園長の清水、副園長の石田を筆頭に、副主幹に 40-50 代、20 代後半の職員、チーフに 20 代後半～40 代半ばの職員、など年齢層としてはまんべんなく居るが、30-40 代の子育て年齢層はやや少ない印象である。結婚、子育てを経ても、細く長く働き続けてもらいたいという考えでいる。

・ 一番若い職員は？

→ 卒業したばかりの 20 歳。ただ、こちらの価値観を若い職員に押し付けるのではなく、本人がこうしたい、頑張りたいと思っている気持ちに寄り添うという、ベテラン職員が気持ちの変換を行うのが課題だと思っている。

・ 研修について、職員の感想は？

→ 一年目の職員は、何それ？というのが率直な意見だと思う。研修では分からないなりにドキュメンテーションを作成し、講師に分析してもらいながら、本人の想いを引き出している。砂あそびひとつにしても、子どもの小さな世界にいかにか寄り添うかを学び、考察し、徐々に保育観を形づくっている。

・ 1.2.3 号の違い、他園との違いがよく分からない

→ 一号については規定を説明。それぞれの生活スタイルがあり、それぞれが良い悪いではなく、園にいる時間をどう過ごすかに重点を置いている。ひとりひとりについて園と家庭とで連携し、生活が連続したものになるように配慮している。

・ 園から小学校への段差が大きいと感じているが？

→ 当園はコーナー保育を導入しており、個々の好きな遊びができるように環境を整えている。また異年齢で育つ力、同年齢で育つ力もそれぞれあるので、異年齢活動の時間、同年齢活動の時間もそれぞれ取っている。園によって取り組みは異なる。

～最後に～

共育の理念はどの園も同じように抱いている。子どもの最善の利益のためにみんなで共に頑張っていきましょうという思いでいる。その運営をするにあたり、みなさまからアドバイスがあれば頂きたい。

・ 地域の目線で言うと、近隣の園同士での連携があればもっと良い。今はちぐはぐな感じがする。

・ 私は本当に産んだだけで、育ててくださっているという思いがあるので、文句や意見は何ひとつない。子どもも毎日満足して帰ってきている。大変な環境の中、限界を超えてここまで頑張ってくださいている方に対して、本当に言えることは感謝だけである。

・ 小学校との連携をもっとなだらかに出来ないものかと、園に来るたびに思う。小学校でも、職員が世代交代するなかで、新人がベテランに IT を教えるという逆転場面が出てきているが、そのなかでも次世代に必ず伝えなければいけないことはある。今後は対面でなくてもオンラインで話せる機会がつけられると思うので、そういったツールを活用しながら連携を深めていけたらと思う。

・ 現場に戻るのは 10 年ぶりでカルチャーショックを受けている。体操指導を専門としているが、あそびを通じての体操指導には共感した。運動するときに出せないこどもを出せるようにするには幼児期からの連続性、連携がキーとなるので、そこは私も主力を尽くしたい。

また、ゆめまち基金への挑戦は大変良いと思う。私も過去に色々な研究をしてきたが、その頑張りは

子どもたちに還元される。また是非、職員のみなさんでチャレンジしてみしてほしい。

*施設関係者評価委員によるアンケート集計結果

2021年度 認定こども園・保育要録に基づく施設関係者評価

<自己評価>及び<公開保育>

自己評価実施日	公開保育（実施日 令和3年12月27日）	施設関係者評価日
令和3年6月	参加人数 26名【教育関係者6名（大学関係2名、高校関係1名、小学校関係3名）保育関係者15名（法人内職員10名、法人外の保育関係者5名）その他教育・施設関係者5名】	令和4年3月28日
評価の記録		
自己評価の説明を受けて	良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・とても丁寧で詳しい資料と説明を頂き、園の運営理念を理解できました。ドキュメンテーションや特別保育により、よりよい子どもへの教育や居場所作りに日々努めておられること、工夫により働き方改革に努めておられることがとてもよくわかります。 ・経験の浅い職員が増える中、定期的に計画された研修を実施されており、園での共通理解が推進されるとともに、子どもたちへの指導の充実につながっていると感じました。また、子ども哲学や体操指導など、子どもたちの健やかな心身の育成につながる取り組みも大変すばらしいと思いました。 ・コロナウイルス感染症に怯むことなく感染防止対策を行いながらの教育保育に園長先生と先生方の子どもたちへの熱意が伝わりました。
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が長期に渡ってきました。地域の子育ての支援、また、保護者とのつながりや保護者同士のつながりの場としての在り方も今後追及していただければ有難いです。 ・会議の話題にもあがっていましたが近隣の園との提携、小学校との接続の課題について、可能な範囲で取り組むことができればいいのではないかと思います。 ・改善点は私にはわかりませんが、改善点はないと思います。
	する点 さらに期待	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染予防に努めるといふ色々な制限が多い中ではありますが、with コロナへの移行の中さらなる工夫により活動の幅を広げていって下さい。 ・研究開発学校やゆめまち基金などの取り組み、大変かと思いますが、チャレンジしていただきたいです。職員の資質等向上に必ずつながりますし、園もさらに活性化できるのではないかと思います。 ・特別保育の特に山田先生ご指導のこども哲学には感銘しました。継続を希望します。
評価の記録		
保育の様子を見て	良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・ちらっと見ただけですが、子どもたちの表情が明るくて良かったです。玄関前の掲示や植栽等レイアウト、色彩共に素敵だけでなく温かみがありました。 ・子どもたちの元気な声が聞こえました。また機会がありましたら保育の様子も参観したいです。 ・環境の良い園庭で子どもたちがのびのびと笑顔で遊んでいるのがとても良かったです。
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。
	する点 さらに期待	<ul style="list-style-type: none"> ・南平台地域の3幼稚園との連携を期待しています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域にありながらなかなか交流も難しい日々ですが、メリットはお互いにそして、子ども達にとって無限大ですね。今後ともよろしくお願ひします。 ・中学校として何が出来るのか、どんなことを連携できるのかを考えていました。本校の施設内学級生徒と園の子どもたちとの交流をぜひ来年度お願ひしたいです。今後ともよろしくお願ひいたします。 	

* 自己評価資料

前期2021 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価		
作成日		令和3年8月30日
法人名	園名	
社会福祉法人照治福祉会	摂津峡認定こども園	
まとめ		全体平均 4.51
第2章第2節 乳児期の園児の保育	基本的には「育児担当制保育」を理解し一人一人の気持ちに寄り添い優しく関わって保育がなされていると思います。より乳児保育の質を高めるために、「育児担当保育マニュアル」を基本とした育児についての共通理解と実践を行うと同時に、情緒や身体の発達を見据えた子ども理解を深めていきたいと思っています。そして、どんな時でも落ち着いて子どもと向き合うことが必要で、大人の都合や段取りで保育がすすめられることのないよう子どもの気持ちや思いが満たされるような保育を心がけていきます。	
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	5領域を意識した保育を一体的にすすめ、毎週掲示しているドキュメンテーションにおいてそのような視点で作成しています。そして、子どもたちの心情、意欲、態度を意識した援助の仕方に重点を置き保育がなされていると思います。環境として保育者の優しいまなざしと言葉がけを意識した保育を行い季節の歌やわらべ歌などを一緒に楽しみ、ほっこりとした経験がたくさんできるように心がけていきたいと思っています。	
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	室内でのあそびについて、コーナー保育の実践を通して子どもたちの「やりたい」「できた」「うれしい」が実現できる環境を用意し、子どもたち同士の関りの中で主体的に色々な経験ができるようになってきています。新年度が始まり生活の面においても、保育教諭のきめ細かい見守りや配慮によりようやく落ち着き始めている。また、相手の意見を受け止めながら話を聞くと言う雰囲気ができ、子ども哲学教室でなされている3つの約束が教育保育の現場でも行われている。お互いを大切に思う気持ちを育てていきたいと思っています。	
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	一人ひとりに寄り添い子どもを理解しようとする姿はどの保育教諭にもみられると思います。朝夕の送迎の時間における保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、子どもの様子を共有することを大切にしています。また、真摯に子どもと向き合い、理解し丁寧に応答することが子ども一人ひとりの自己肯定感を生み健やかな育ちに繋がることを考えています。それは職員間においても同じことがいえることで、職場の雰囲気が子どもの教育保育の現場において大きく影響することを念頭に取り組んでいきます。	
第3章 健康及び安全	それぞれに任された担当に責任をもって取り組んでいます。非常時に備えマニュアルの見直しや定期訓練を行っています。非常時の保護者への連絡などの連携がうまく図れるよう安全に対応できるようにしていきたいと思っています。食育については、畑や植栽の充実が奏してたくさんの野菜や果実の収穫がありました。また、管理栄養士による「食」についての取り組みが行われ子どもたちも楽しそうに参加していました。	
第4章 子育ての支援	地域の子育て親子が安心して園庭開放などに参加できるよう細心の配慮のものとびのびと遊べる環境を用意しています。また、担当する職員は、親御さんとのコミュニケーションを第一に心がけ、地域にある施設としての価値を見出し、コロナ禍でありながらもできるだけ開放できる方法を模索しながら子育て家庭への支援に取り組んでいきたいと思っています。	
第5章 職員の資質向上	事業計画にもあるように分業による自分の立場でやるべきことややらなければならないことを、職員一人一人が見極め実行していくことが肝要かと思っています。そのために職位や組織図の中にある担当、行事の担当などを明確にすること、それが意識化され運用されていることを園長はしっかりと管理し状況を把握して行きます。研修については法人の取り組みと並行してキャリアパスを見据えた研修を主に取り組み、専門性の向上を目指していきます。	
総合	今年度上半期を振り返り、職員の育成と質の向上、保育の振り返りとその充実に努めました。子どもたちが安心して過ごせる空間やあそびが深まっていくための計画や職員間の連携等について会議を重ねてきました。幼児クラスにおいては、フリー職員のフォローを受けながらクラス運営の安定を図った結果、前期の振り返りと後期の保育計画への見通しが付きました。乳児クラスにおいては、子どもの成長に伴うあそびの環境や生活をする環境、子どもたちを取り巻く人的環境について適切な対応が求められ保育者の援助の仕方や保育の環境について細かい確認作業が課題となってきます。例えば日課の見直し、あそびの環境の見直し、子どもの成長に伴う保育者の見守り方などがあげられます。これからも笑顔で子どもたちと楽しく向かい合いたいと思っています。	

データ表		
内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	5.00
「3歳未満児保育」	32	4.72
「3歳以上児保育」	53	4.57
「教育保育の配慮事項」	16	4.00
「健康・安全」	29	4.38
「子育ての支援」	18	4.44
「職員の資質向上」	9	4.00
計	172	4.51

データグラフ	
項目	平均
「乳児保育」	5.00
「3歳未満児保育」	4.72
「3歳以上児保育」	4.57
「教育保育の配慮事項」	4.00
「健康・安全」	4.38
「子育ての支援」	4.44
「職員の資質向上」	4.00